



笑顔とやる気いっぱいの中 生徒自らが常に鍛え続ける中

七中だより



第 10 号 中野区立第七中学校《学校だより》
URL <http://homepage3.nifty.com/nk-7-j/>

平成 30 年 1 月 24 日
TEL 03-3389-4171

新年を迎えて

校長 池田 俊一

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

正門の両脇にある桜のつぼみが少しずつ膨らみはじめ、それを見ると心が緩みます。まだまだ寒い日が続きますが春は確実に近づいている様子です。穏やかに明けた今年、学校も穏やかにスタートが切れました。この後も落ち着いた七中で学年の末を迎えたいと思います。

さて、この休み、話題になっている書物を手取る機会がありました。「君たちは どう生きるか」(吉野源三郎著)と言う本で、単行・文庫・マンガ版と一気にタイプの違うものが出版されました。特にマンガ版は話題になり書店の店頭で平積みになっていました。

初版は 80 年前に発行された本ですが、私は単行の物を求めました。マンガを読むのは実は苦手なのです。内容は旧制中学校に通う 15 歳の少年コペル君(本名:本田潤一)の日々を追いかけて生活のなかで起こる、友情、いじめ、貧困、勇気等に関することが題材になっています。それらについて深く考えるエピソードが起これコペル君は悩みます。そして悩んで結論を出し自分の生きる糧として成長していくものとなっています。また、コペル君をとても大切に思ってくれる「叔父さん」とのノートの交換、対話をすることで自分と違った世代の考えを聞き更に深いところに想いを馳せていきます。私は、これを読んで是非読んでほしい一冊だと思いました。80 年前の日常がいきいきと描かれ全く古さを感じません。当時の

生活の様子もト書きで分かるように説明されています。特に友達との約束を実行できなかったコペル君を描いた章では、身につまされるものがあります。自分のしてしまったことから「逃げ出す自分」と「立ち向かう自分」のせめぎ合いの部分は、現在に中学生にも日常的に起こりえるクロスロードです。マンガ版でも良いでしょう。是非読んでみてください。先生の本は、学校の図書館にお預けします。

話は変わりますが、上の文章に出てくクロスロードと言う言葉は、「分岐点」という意味で、どちらかを決定しなければならぬ時ということです。私がこの言葉に出会ったのは、平成 24 年 11 月、本校は「防災教育の研究校」の指定を受け、慶応義塾大学の教授吉川肇子先生をお招きして勉強していた時でした。体育館に学校全員が集まり生徒も先生も保護者の方も一人ひとりが赤と緑の葉書サイズの紙を持ちどちらかを上げて自分の意思を示すという内容でした。質問は防災にちなんで「非常食を用意していない人の前で自分だけ用意しておいた非常食を食べられるか」「ペットを避難所へ連れていくか」等といったものでした。時間がない中で決断を迫られる場面でした。災害と例えば、年が明けて 5 日(金)突然職員室にいた先生方のスマホや携帯電話に緊急地震速報が飛び込んで大きく振動しました。私も大変驚きました。すぐ



に校内放送をかけましたが、幸い揺れはなく大事に至ることはありませんでした。また、その夜には、突き上げるような地震があり飛び起きました。

1月は阪神淡路大震災があった月です。あれから23年と言う月日が流れています。今年は、神戸市の東遊園地に並べられた竹灯籠で「伝」と言う文字が表されました。災害から学ぶことを風化させないという思いの表れです。日頃の防災への意識を整えていきましょう。

今年の抱負

生徒会長

生徒会は、12月16日に中野区の中学校生徒会役員が集まる生徒会意見交流会、12月26日に東京都の中学校が生徒会役員が集まる生徒会長サミットに参加しました。



そこでは、沢山の生徒会活動を学べました。中でも、驚いた活動は地域や世界に役立つ活動です。その地域に緑を増やしていく運動や清掃、ユニセフ募金や企業と協力して支援金を集めるなど、自分たちの学校だけでなく、広い空間で考えることは、見習いたいと思いました。

また、いじめ撲滅運動や生徒会主催の行事を多くの学校でやっていることが分かりました。生徒会アンケートで出た意見や要望を参考に、楽しい行事や学校が明るくなるような事も進めていこうと思います。

そして、何よりも意見交流会や生徒会長サミットに参加して良かったと思うことは、第七中学校の良い点と課題点が新たに見つけられたということです。今までは、他校の生徒会活動を知らずに、1つの考え方で必死になっていましたが、各学校の生徒会と交流ができて、伸ばしていくべき点が多く見付き、それを生かした、第七中学校なりの第七中学校らしい活動ができると思いました。その反面、多くの学校との共通課題点も多く上がりました。例えば、新しい活動やその目的がみんなに浸透していかないこと、部活や勉強との両立、計画が思い通りに進まないこと…などです。考える時間がないことや、初対面ということもあり、共通に抱えている問題をうまく解決できな

かったので、今後役員と話し合う時間や対策をつくっていきたいです。

これらのことを踏まえて、今年の抱負として、「地域と携わる活動をすること」「今よりもっと明るい学校にするための計画を進めること」の2つです。生徒会活動の時間は短く、私たちが今の生徒会で活動できるのも長くはありません。やらなければならない事をしっかりとスムーズに取り組み、更にやっていきたい事に挑戦していきたいです。



※中野区中学校生徒会意見発表会の様子

人種の壁を越えて

中野区の人権作文コンクールの代表生徒の作文を紹介します。



人種差別。たった四文字のこの言葉。しかし、その意味の大きさ・深さは、四文字に収まりきれないほど重く感じます。

肌の色が違うことや、目の色、体の大きさが違う

ことを理由に仲間外れにしたり、暴言・暴力をしたりすることです。名称は違いますが、いじめと似ています。だから絶対に許されないことです。それに自分がされたくないものは、人にしないしてほしいと思います。

しかし、人種差別を日本人もしていたことがありました。今から約107年前から日本は植民地政策を押し進め、韓国への支配を続けました。その支配の中で日本は韓国に母国語を禁止させ、人々の名前をも奪いました。これだけにとどまることなく、日本の歴史や日本語を無理矢理教えさせ、韓国の文化を侮辱しました。日本はとり返しのつかない、言葉で聞いても苦しくひどいことをしたという事実があります。それでも韓国人は自分の国に誇りを持ち続けました。

それは本当に素晴らしいことだと思いませんか。私
がもし日本で同じようなことをされたら、と考えるだけ
で胸がつぶれそうになります。それを日本人がして
いたと思うと怒りがわく一方、ただただ悲しいです。
でも、そんなことをしたのは日本人の一部だ、と思
いたいです。たしかに全員がしたことではありません。
だからと言って、許される訳でもないことは分かっ
ています。だから深く反省し、お互いを尊重し合う必要
があると私は思います。

アジアだけにとどまらず、アメリカでももっと大きな
差別が起きました。白人の黒人への差別です。この
差別に大きく反対し、アメリカの人種差別撤廃に大
きな礎を築いた人物がいます。その人の名前は、マ
ーティン・ルーサー・キングです。

キング牧師は15歳の時、弁論大会で「黒人と憲法」
というスピーチをして優勝しました。それでもバスや
水飲み場、トイレでの人種差別を受けたり、公園や
図書館などの公共施設へ行くことさえ許されませ
んでした。このため、キング牧師を初めとする多くの黒
人が肌の色だけで差別を受け、厳しく辛い経験をし
てきました。この怒りを覚えたキング牧師は大人にな
り、多くの人前で人種差別の反対を叫びました。
演説の中で出た「私には夢がある」という言葉は、多
くの人々の心をふるわせ、黒人にも、少なからず白人
にも勇気を与えました。しかしこの5年後、キング牧
師は39歳という若さで暗殺されました。どれだけ
の世界中の人々が悲しんだことでしょうか。私は肌の色
が違うだけで奴隷として動物のように扱われたり、自
由を奪われたりするのには、絶対に間違っていると思
います。でもキング牧師は暴力をふるわれる世の中
でも、暴力を否定し、自分の考えを曲げることをしま
せませんでした。それはとても勇気のある行動で、すば
らしいことだと思えます。なぜそのような偉大な人が、
殺されなければならないのか、と怒りを覚えるし、人
として絶対してはいけないことだと確信しています。

人間は皆平等のはずです。この同じ地球上に暮ら
している仲間なのだから、差別などやめてほしい、と
思います。最近はずいぶんこの願いが叶い始めて
いる気がします。

2009年にアメリカ大統領に黒人初のオバマ氏が
就任しました。このおかげで多くの人々が救われ、
勇気を与えられました。私は、これをアメリカの人々
が人種の壁を超える第一歩なのではないかと思い、
うれしく思いました。

また、2016年には南米初のオリンピックがブラジ
ルで開催されました。南米では白人、黒人、黄色人
の異なる人種の人々が互いに協力し合い、助け合
い暮らしています。まだ発展途上国のため、オリンピ
ックが無事成功するのかと心配されていましたが、
世界中の人々が人種の壁を越えて応援し、選手
の間でも観客の間でも深い交流がありました。世界の
文化とブラジルの文化が混じり合い、感動する、す
ばらしいものだったと思います。これをキング牧師が
見たらどう思ったでしょう。きっと喜んだのではないで
しょうか。

これからも世界中の交流は続くだろうし、人種の壁
を越えることも多いと思います。2020年には東京で
オリンピックが開催されます。きっと多くの人々が東京
に集まるでしょう。その時は、様々な国の一人一人
が理解し合い、助け合って尊重し合ってほしいです。
人種差別は許されないことだと、一人でも多くの人
に感じてほしいです。そして、この世界に人種の壁
がなくなり、世界中の人々が幸せに暮らすことができ
ますように。

私も人種の壁を越えて、たくさんの人とコミュニケ
ーションをとっていきたいです。「真の平和とは、単
に緊張がないだけでなく、そこに正義が存在するこ
とである。」というキング牧師の言葉を胸に前に進ん
でいきたいと思っています。

東京都教育委員会 生徒表彰

2月10日に東京都教育委員会表彰が予
定されています。本校から3年生が表彰さ
れます。全国書写書道総合大会において総
合賞を受賞し、合わせて文部科学大臣賞を
受賞しました。



校内 書初め展

校内書初め展審査結果です。金賞受賞者の作品は中野区書初め審査会に推薦されます。



サンタクロースからの手紙

D組の大教室の廊下に素敵な手紙が掲示されています。



内容は、「ほーほーほー」から始まる楽しい内容の手紙です。

詳しい内容は是非！来校の際ご覧ください。D組の廊下には生徒の作品が展示・掲示されています。



一人一人の想いが充実したものになりますように。

